

商いの新しいものさし

第91回

(株)商い創造研究所
代表取締役

松本 大地

地域スポーツと商業施設の相関関係

広域中核都市と称される札幌、仙台、広島、福岡では、地方都市としては例外的に人口増加がみられる。共通するのは全国比で所得水準が上位にあり、企業や学校も集中

する。そこで街に活気が溢れ出し、そこから多様性やビジネスチャンスが広がる。街の賑わい度は福岡を100とすると、広島は70、仙台、札幌は60くらいと感じる。もう一

つ共通するのは、4都市にはプロ野球球団本拠地があることだ。巨人、阪神の東

京や大阪といった大都市よりも地方都市では郷土愛が強く、地域コミュニティの

支柱になっている。そこで商いの新しいものさしは、

県民の9割が応援する広島カープでは、数年前から「カープ女子」の言葉が使われ始めた。これは地元の女性ファンを指すのではなく、東京のカープ女子も増えるなど全国に広がりつつある女性同士で形成された緩やかなつながりである。カープは12球団で唯一親会社を持たない独立採算経営の市民球団であり、被災地の戦後復興として市民の樽募金による生い立ちから歩んできた経緯もあり、共感する人達との強い絆が築かれている。

そこにはファンの範疇を超えて、自らが周りを巻き込んで支援するサポートとなり、市民も、企業も、行政も共に歩んできた。その結果、かつては入場者数セリーグ最下位の常連で厳しい球団経営が続いたが、今や入場者数も急増し、グッズ販売やファンとの交流などトータルなスポーツビジネスとして成長を遂げている。ファンは愛好家だが、サポーターは支持者であり、地域と密着しているチームにはサポーターが育っていく。最大の強みは、サポーター同士が自分を飾らずに過ごせる場として、心が通い合う緩やかなつながりによる、「Happy Together」が生まれていることだ。

米国は人種や言語、文化、価値観の違いによる多様性の上で成り立っている国家であり、人と人と地域とがつながる役割を担っているのがスポーツである。プロスポーツからアマチュア、子供



地元球団を応援する地元百貨店福屋

たちの地域スポーツクラブまでその裾野は広い。地域で応援し活躍する選手をヒーローとしてあがめるのは、自分の夢の代わりとしての生き甲斐や日々の生活の中でリフレッシュを享受し、身分や階級も関係なく応援できるスポーツが潤滑油となり共同体意識の役割を果たしている。

もし、地域スポーツを応援する共同体意識がなければ、地域との拠り所がなくなり、人間関係は希薄化し、地域コミュニティは弱体化する。またスポーツと地域活動を組み合わせた活動も多く、スポーツとボランティア活動といった社会関係資本の形成にも地域スポーツ活動の影響は大きい。

今年からロサンゼルス・エンゼルス球団にて二刀流で活躍している大谷翔平選手は、地元エンゼルスファンのみならず、日本からも熱い視線が送られている。この原稿を書いている時点では肘の故障で欠場しているが、一人の選手が計り知れないほどの米国と日本との良好な関係を築いてくれた。

実は弊社と本紙との共同企画で続けている今年度の米国視察では、ロサンゼルス視察の中にエンゼルス球場での大リーグ観戦を盛り込んだ。試合開始の1時間前にスタンドに入場してもらうのは、時おり地域のボランティア団体が集めた本も服のオークションがあるからだ。その収益金を何かの募金や地域コミュニティ活動に運用するなか、地域共生とは「おたがいきま」が基本なのがわかる。スポーツ応援と地域コミュニティづくりは、とても相性の良い関係性がある。

そこで商いの新しいものさしとして、ショッピングセンター(S.C)事業

でおすすめたのが、野球やサッカーならば地元のスポーツ少年団やリトルリーグへの支援活動だ。米国ではロードサイドの施設や店舗の駐車場一角で、子供たちが洗車サービスをして遠征資金を捻出する姿を見かける。S.Cデベロッパがジュニアチームの冠大会をつくり、その支援をすることもできよう。またクラブ運営資金を店舗の釣り銭募金で集めるといった試みができないものか。人が集まるS.Cは地域コミュニティづくりの格好の場であり、地域スポーツ支援をすることで、親だけでなく子供にも小さい頃から親しみを持ってもらうことで、世代継承の端緒にもなる。施設や店舗のロイヤルカスタマーづくりの良質なパイプは、スポーツが介在するおたがいきまの関係性づくりで強くなれる。